

春風にのせて

徳島県立那賀高等学校

教育相談課

(平成31年3月22日(金)発行)

太龍の山々も春色に包まれ、心地よい暖かさを感じる季節となりました。今年度を振り返り、次年度の計画を立て、決意を新たにする時期でもあります。1年が過ぎるのは本当に早いもので、本日3学期の終業式を迎えることとなりました。皆さんにとって、充実した良い1年だったでしょうか。今年度最後の「教育相談通信」は、教育相談課員7名からの那賀高生へのメッセージと、学年末に実施した学校生活に関するアンケート結果(1・2年生)を掲載しています。じっくりと目を通し、心を通わせてください。

A先生

皆さんは旅行に行くことがありますか?行くときはどのような交通手段で行くことが多いですか?車?汽車?飛行機?2年生になると、学校では修学旅行もありますね。私は、たまにしか旅行に行かないのですが、時間が許すのであれば、飛行機よりは汽車、汽車よりは車、車よりは自転車、自転車よりは徒歩で行ってみたいと思っています。それは、人間の視覚範囲というのはスピードが増すごとに狭くなるらしいということと、目的地に着くまでの道のりにも、また楽しみがあると感じるからです。移動時間がゆっくりになるにつれ、たくさんものが見え、心が動く。道端の草花に季節を感じることもあるでしょう。その意味では途中の道のりもまた、「目的」ということになるのかも知れませんね。そう考えると、「旅行」というよりは「旅」ということになるのかも知れません。

人生はよく旅にたとえられます。旅行に行かなくても、時には立ち止まって周りに目を向け、「自然の豊かさ」を感じてみてください。皆さんの周りあるもっとたくさんの「すてきなこと」に気づくことができると思います。

B先生

来る3月23日から阪神甲子園球場で開かれる第91回全国高校野球選抜大会に、母校である富岡西高校が出場します。創部120年目にして、初の夢舞台、後輩たちには思い切り自分たちの野球をしてもらいたいです。そして勝って校歌を歌ってほしいと願っています。

さて、選抜大会と言えば、忘れられない選手宣誓があります。それは2011年の第83回大会の創志学園(岡山県)の野山慎介主将の選手宣誓です。2011年3月11日、東日本大震災発生。大きな被害がまだ、拡大している最中、大会中止も検討されましたが、開催に踏み切った選抜大会。その3月23日の開会式の選手宣誓です。

「宣誓。私たちは16年前、阪神淡路大震災の年に生まれました。今、東日本大震災で多くの尊い命が奪われ、私たちの心は悲しみでいっぱいです。被災地ではすべての方々が一丸となり、仲間とともに頑張っておられます。人は、仲間を支えられることで大きな困難を乗り越えることができると信じています。私たちに今できること。それはこの大会を精いっぱい元気を出して戦うことです。がんばろう!日本。生かされて

いる命に感謝し、全身全霊で正々堂々とプレーすることを誓います！」

東日本大震災から8年が過ぎました。私たちは南海トラフ大地震に備えることを念頭に置きながら、もう一度生かされている命に感謝し、仲間を思いやり、人に優しく、生きていきたいものです。

C先生

息子が生まれた時は、身長 50cm で体重は 3,195g でした。出産予定日だった 2月14日に陣痛が始まり、その日の夕方には無事に生まれてくれました。一声泣いた後は、すぐに眠ってしまい、その後も、とにかくよく眠る子でした。看護師さんに起こしてでも母乳を飲ませなさいと叱られたことを覚えています。小さく華奢な息子が、今春、小学校を卒業しました。今では身長 150cm, 体重 40kg を超え、声変わりも始まりました。最近では、話す事柄も大変生意気です。

人生の中で、子供でいられる時間はほんの少しの間です。ほんの少しの間ですが、成長はめざましく、獲得できる力も膨大です。今だからこそ、学べることも多いのです。貴重な子供の時間を大切に、自分の可能性を精一杯伸ばしてほしいと思います。

D先生

昨日は春分の日でしたね。「国民の祝日に関する法律」では、「自然をたたえ、生物をいつくしむ」日であるとされています。毎年日付が異なるのは、太陽の位置をもとに決められているからです。前年の2月に、国立天文台が公表することになっています。(2020年は3月20日です)

ちなみに、春分の日前後7日間を春の彼岸といい、先祖を供養するためにお墓参りをしたり、仏壇にお供え物をしたりします。そこで思い浮かぶのが「ぼた餅」ですね。「おはぎ」との違いは何なのか。幼い頃は彼岸のたびに不思議に思っていました。これについては諸説あるようで、『春は牡丹が咲くから「牡丹餅」、秋は萩が咲くから「お萩」と呼ぶ』とか『こしあんが「ぼた餅」で、つぶあんが「おはぎ」である』とか何とか。

今回は春分の日について述べましたが、季節行事や風習の由来について知ると生活が豊かになりませんか？一年の節目を大切にすることができれば、人生の節目も大切にすることができると思います。五感で季節の変化を楽しみましょう。一つ一つの学校行事にも前向きな気持ちで取り組みましょう。そのようにして、卒業という大きな節目を迎える準備をしていってください。

E先生

今年のバレンタインに2歳の娘とトリュフチョコを作りました。これまでも、パンやおだんご、ぎょうざ作りを手伝ってもらったので予想はできていましたが、粉糖まみれになりながら頑張ってくれました。普段あまりチョコは食べませんが、「おいし〜い！」と3こも食べました。自分が作ったという達成感や「ありがとう」と言ってもらった嬉しさで、いとこや保育園の先生に渡したときのことを何度も話してくれました。

私自身、子どもが生まれてから、手作りのよさを感じるが増えました。娘のためにと手作りのベストやスタイをもらったり作ったりしました。着るものや持ち物など愛着がわくようで、娘は喜んで身につけています。作った人の気持ちがこもり、もらった人を温かい気持ちにさせてくれるのが、手作りの素敵どころだと思います。みなさんも手作りのなにかで気持ちを表してみてもはどうでしょうか。

F先生

3月2日、孫(6歳)が通う保育所のお茶会お披露目会に参加しました。昨年の5月から、月1回のお稽古を経ての発表会です。白い靴下を履いた孫と嫁の3人で会場まで行きました。孫の出番は2席目。1席目の子たちが終わるまでの間、2席目の園児たちは楽しそうにおしゃべりをしています。保育士さんが小声で、「そろそろ1席目が終わるから皆さん静かにしてください。」と、何度か注意を促します。

10時30分、園児は指示に従って静かに廊下に並び始めました。保護者は子どもたちの緊張した様子を

見ながら先にお席入りし、園長先生の説明を聞きました。子どもたちが亭主役・お客様役を交替しながら、お茶をいただきます。亭主・半東さん役の子が「お菓子をお召し上がりください。」「お茶をお召し上がりください。」と言って、勧めていきます。勧められた子は「お先にいただきます。」と次席の子に言い、次席の子は「どうぞお上がりください。」と返します。園児が全員お抹茶をいただいた後、続いて保護者がいただきます。「1」の字を書くように、お茶筌を一生懸命振る姿、両手一杯もある大きい茶碗を落とさないようにとお運びする足の動き、家族の前で正座してご挨拶する子どもたちの顔には緊張感だけでなく、ご披露できる喜びや誇らしさもあふれています。なんと可愛く、愛おしいことでしょう。

お母さんやお父さんは一斉にスマホやビデオで撮影し始めました。高校生の皆さん、参加しているご両親やお婆ちゃんの顔を想像してみてください。前のめり気味になったり、背伸びをしたりして我が子を見つめる保護者。どの人も慈愛に満ちた微笑みを浮かべています。

子どもの成長を喜ぶ親や家族の姿を拝見し、幸せな時間を過ごすことができました。皆さんもご家族や関わってくださった多くの方々から、たくさんの愛情を注がれ、見守られて現在に至っています。どうぞ立派な社会人として自立できるよう、周りの方々からのアドバイスや忠告を素直に受け止め、失敗しても粘り強く続ける力を養ってくださいね。

G先生

今年度は、「平成最後の……」との表現をよく耳にしました。私にとっての「平成」という時代の30年間は、人生における幾度かの節目がありました。まず、元年の1月に結婚し、4月には初任の教員として、那賀高校に赴任しました。希望に胸を膨らませていた27歳の自分を思い出します。11HRの担任をし、35名（男子24名女子11名）の生徒たちと日々向き合っていました。

さて、私の住む阿南市では、広報紙『あなん』が毎月発行されています。その中に、「リレー随筆」という欄があり、私は平成2年2月に185人目で執筆させていただきました。確か、職場の事務長さんからのリレーであったと記憶しています。その文面を振り返ってみます。

題名「嫁いで」

時は如月。早いもので、筥の里である福井町から学原町に嫁いで一年余りが過ぎました。思い起こせば嫁ぐ朝、美容師さんが「旦那さんが待っていているのだから、今日は楽しいことばかり考えていないとね。」と言ってくださった言葉をかみしめ、万感胸に迫るものをこらえて、人生における新たなスタートをきったのでした。

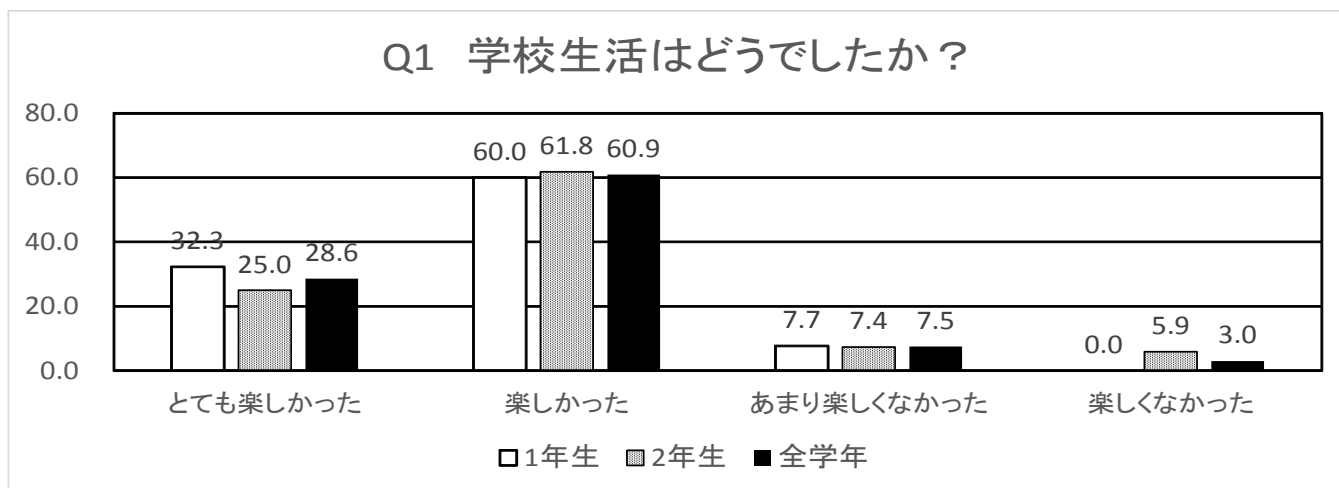
新しい家族は、祖父母・両親・妹・私たち夫婦という三世代同居の賑やかさです。共働きの両親と兄という核家族で育った私にとっては、いつも誰かが家に居てくれることは、この上もなく有り難いことで、特に勤めをもつ私には、家族の協力や援助は何物にも代え難いものです。また、今まで経験したことのなかった農作業や季節の行事など、家族から教わることは多く、不慣れながらも伝統的で価値あるものを、夫と共に受け継いでゆかなければと思っています。

こんな私たちにも四月には子供が生まれます。家族みんなが誕生を心待ちにしてくれ、こんなに嬉しいことはありません。「大きいおじいちゃん・小さいおじいちゃんと呼ばそうかな」なんて早くも考えています。

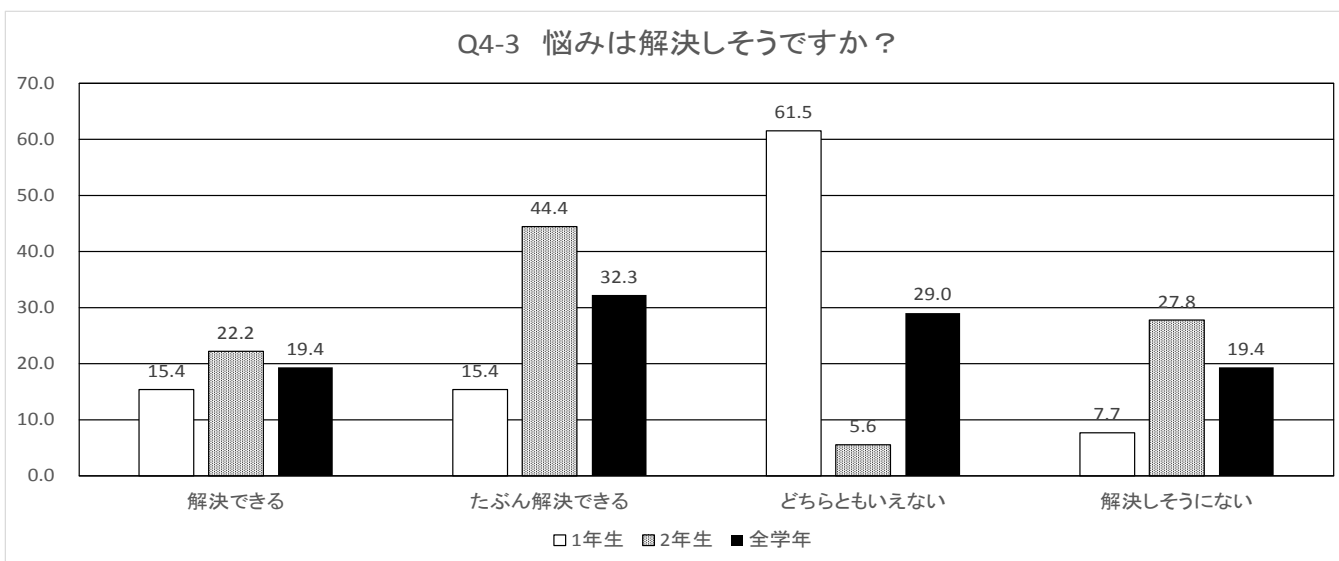
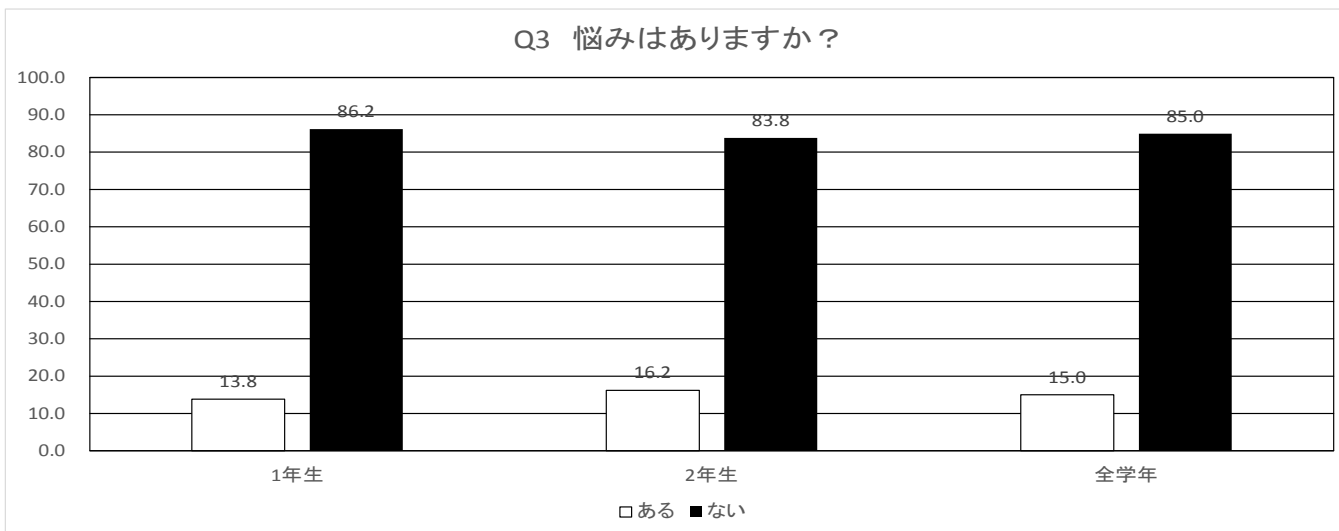
お腹の中の赤ちゃんへ。人の気持ちがわかる、心優しい人に育ってくださいね。

この随筆を書いてから30年が経ちました。初心を忘れず、家庭人および職業人として、日々の生活を大切に、一步一步、人生を自分らしく進んでいきたいと思えます。

学校生活に関するアンケート調査結果（1・2年生の合計）



1・2学年において、「とても楽しかった」「楽しかった」との回答の合計が89.5%となっています。



悩みを抱えている生徒は、1・2学年で15.0%いますが、その内の51.7%の人は、解決するという展望をもっているようです。

（文責 教育相談課）